

プレスリリース
2017年6月13日

ロンドンにて再び修理サービスを

オットーボックは、世界パラ陸上競技選手権 2017 ロンドン大会にて修理サービスを提供します。



2012年にロンドンで開催されたパラリンピックでオットーボックが修理サービスを提供してから5年が経ちます。ロンドン大会では80名の技術者が、22日間で123カ国の選手に2,062件の修理を実施しました。そして今回、オットーボックは世界パラ陸上競技選手権のオフィシャルサポートパートナーとして再びロンドンに戻ってきました。オットーボックが世界パラ陸上競技選手権で修理サービスを提供するのは今回で8回目になります。

2017年7月14日～23日の大会期間中に、1,300名の選手が213の競技でメダルを争います。オットーボックからは、義肢装具士、車いすエンジニア、溶接の専門家、バックオフィスを担当するスタッフ、総勢22名が招集されました。「パラリンピックに比べれば小さなチームになりますが、忙しい毎日であることには変わりありません。機器のトラブルで競技に参加できなくなる選手が出てきてはなりませんから、一つ一つの修理がすべて重要になります。1,000件の修理であろうと40件の修理であろうと、選手それぞれにはさまざまなストーリーがあります。」とオットーボックのスポーツマーケティング・スポンサー部門の責任者であるピーター・フランツェルは語っています。

修理サービスセンターは15日間オープンしますが、これまでの経験からすると、大会開始前が一番忙しくなります。選手は競技開始前にやってきて、自分が使用する機器の点検を済ましてしまいたいのです。技術的な理由からでもありますが、心理的な理由でもあるようです。

センターを訪れる選手の中には古くからの友人である選手もいます。ハインリッヒ・ポポフ選手はスポーツキャリアの集大成としてこのロンドン大会を最後の大会にするつもりでしたが、肩のケガと断端の炎症でしばらくトレーニングをすることができなかつたため、ベストパフォーマンスができないのではと考え、引退を2018年に伸ばそうとしています。

また、ポポフ選手の友達でありトレーニングパートナーでもあるレオン・シェファー選手もロンドン大会に出場します。シェファー選手はまだ20歳で、リオパラリンピック直前にドイツナショナルチームの指名を受けて出場しましたが、パラリンピックで競技して以来、成績を着実に伸ばしています。シェファー選手は、友達であり心の師であるポポフ選手と一緒にロンドンの表彰台に立つことを目標にしています。このように、スポーツキャリアを集大成として閉じようとする選手もいれば、それを引き継ぐように日の出の勢いの選手もいるのです。

お問い合わせ先:

映像・写真の提供、取材の予約、その他、詳細については、下記までご連絡ください。

オットーボック・ジャパン(株) 佐竹
TEL: 03-3798-2113 / E-Mail: ottobock@ottobock.co.jp